

## 千葉県における過去 8 年間の性感染症発生調査報告（抜粋）

五十嵐 辰男（千葉大学フロンティア医工学センター）、高橋 敬一（高橋ウィメンズクリニック）  
伊藤 晴夫（NPO千葉健康づくり研究ネットワーク）

### 1. 考察

本調査では、千葉県における性感染症の現況は、産婦人科受診数が過半数であること、性器クラミジア感染症が多いこと、男性では 20 代後半から 30 代前半を、女性では 20 代前半をピークとする年齢分布を示すこと、10 代では性器クラミジア感染症が多いこと、などが判明し、これまでの報告と同様であったことが確認された。発生数の推移に関し、厚生労働省の定点観測に基づく調査によると、淋菌感染症・性器クラミジア感染症は平成 14 年をピークとし、性器ヘルペスウィルス感染症、尖圭コンジローマはやや遅れて平成 17 年～18 年をピークとして以後漸減傾向に転じている。今回の千葉県における全数調査でも同様の傾向を認めているので、本県でも性感染症の発生は低下傾向にあるのかもしれない。本研究では、県内の 3 診療科を第一標榜科とする医療機関を対象としたアンケート調査を行ったが、この調査結果の妥当性を担保するには調査対象の選択と回答率および調査時期の解析が必要である。

2006 年の本研究の開始時に、調査対象となる医療機関の抽出には、一部の医会会員名簿のほか、ウェブサイトによる検索を行った、アンケート送付先数が増え、回答率も低い結果となった。2007 年以降は、前年度の回答を解析し、廃院、当該医療機関なし、第一標榜科ではない、などの施設を除外した。その結果、概ねアンケートに協力的な医療機関が固定してきたので、年次推移については信頼性があるものとする。ただし、性感染症患者の受診が多いと思われる医療機関が調査に含まれているとは限らないこと、およびアンケートの回答率が 60～70%であったことより、発生の絶対数についてはこのような調査では信頼性が低い。今後、可能であれば保険診療レセプトとの比較などが必要であろう。

調査時期の変動については、これを補正するデータがなく単純に比較しただけであるが、調査月の差による発生数の変動は抽出されなかった。

今回の調査で、千葉県の医療圏ごとの発生動向が把握されたことは興味深い。千葉県は人口の 6 割以上が千葉市から北西部に集中している。当然ながら千葉、印旛、東葛南部、東葛北部での発生件数が多い。しかし、人口 10 万人あたりに換算すると、人口の少ない地域の発生が目立ち、特に印旛医療圏に多いと思われた。同様に 10 代の発生件数を人口比で比べると、印旛と市原医療圏が多いことが判明した。青少年からの啓蒙活動は将来の性感染症の発生を抑えるために有効と思われるので、このような地域性に関して検証を進める必要があると思われた。

### 2. まとめ

千葉県における過去 8 年間の性感染症発生調査結果を通覧した。性感染症の発生数は減少傾向にあったが、直近の 3 年間では増加傾向を示した。性感染症の絶対数は性器クラミジア感染症が多かった。未成年では女性の発生が多く、この年齢層の対策が 20 代の発生数を抑える意味でも重要と考えられた。

※ 本報告の全文は、NPO千葉健康づくり研究ネットワークWEBに掲載してあります。

NPO千葉健康づくりネットワークURL：<http://www.chibaken - sti.jp/>